

第 651 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プログラム

日時 2019年1月12日(土) 午後2時00分

場所 東京医科大学病院本館6階臨床講堂



次回以降開催予定日

2019年2月9日(土) 東京医科大学病院本館6階臨床講堂

2019年3月9日(土) 東京医科大学病院本館6階臨床講堂

2019年5月11日(土) 東京医科大学病院本館6階臨床講堂

世話人

プログラム係

山西 慎吾

日本医科大学小児科 03(3822)2131

(FAX) 03(5685)1792

会場係

熊田 篤

東京医科大学小児科 03(3342)6111

(FAX) 03(3344)0643

事務局

03(5388)7007

e-mail: jpstokyo-office@umin.ac.jp

第 651 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1 題 6 分、指定発言 5 分、追加討論 3 分以内、厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:35

座長 早川 潤 (東京山手メディカルセンター)

1) 発症後 5 年を経過して再発した胎児型横紋筋肉腫の 1 例

○澤井 大和¹⁾、高杉 奈緒¹⁾、寶月 啓太¹⁾、日高 もえ¹⁾、三谷 友一¹⁾、樋渡 光輝^{1),2)}
岡 明¹⁾ (東京大学小児科)¹⁾、(東京大学医学部附属病院無菌治療部)²⁾

7 歳女児。1 歳時発症の膈原発胎児型横紋筋肉腫に対し多剤併用化学療法、手術、放射線治療を行い寛解を達成した。5 年後単径部リンパ節腫脹を認め、腫瘤全摘術後、病理で再発と診断し ICE 療法と放射線照射を行った。低リスク群胎児型横紋筋肉腫は予後良好で晩期再発は稀だが、再発の可能性や再発後の治療選択にも留意すべきである。

2) 骨髄穿刺が治療方針決定に有用であった特発性血小板減少性紫斑病 (ITP) を合併した Basedow 病の 1 例

○板谷 真子¹⁾、我有 茉希¹⁾、高澤 啓¹⁾、渡邊 友博²⁾、渡辺 章充²⁾、渡部 誠一²⁾、
鹿島田健一¹⁾、森尾 友宏¹⁾ (東京医科歯科大学小児科)¹⁾、(土浦協同病院小児科)²⁾

14 歳女子。甲状腺腫大から Basedow 病と診断し、MMI で治療開始した。治療後血小板が減少し (7.8→3.8 万/ μ L)、MMI の影響を考慮したが、骨髄所見で ITP と診断された。プレドニゾロン、MMI の併用で治療を継続し、甲状腺機能、TRAb、血小板数いずれも改善した。早期骨髄検査が治療方針決定に有用であった。

3) 難治性伝染性軟属腫を契機に発見された DOCK8 欠損症

○門脇 弘子¹⁾、鈴木 有里¹⁾、佐藤 圭子¹⁾、水野 晴夫¹⁾、佐藤佐由里²⁾、松崎佐栄子³⁾、
倉島 一浩³⁾ (山王病院小児科)¹⁾、(同 皮膚科)²⁾、(同 耳鼻咽喉科)³⁾

3 歳男児。正常発育発達だが、乳児期からアトピー性湿疹を認めた。2 歳ごろ肺炎、中耳炎を繰り返した。このころから、腹部から外陰部にかけて難治性の“水いぼ”様湿疹が多発した。高 IgE 血症と難治性伝染性軟属腫、反復性中耳炎のため、東京医科歯科大学で免疫学的精査を依頼した。結果は、国内第 2 例目の DOCK8 欠損症であった。日ごろ診る“水いぼ”に稀な疾患が存在したので報告する。

指定発言 金兼 弘和 (東京医科歯科大学大学院小児地域成育医療講座)

第 2 グループ 14:35—15:05

座長 内田 佳子 (国立成育医療研究センター総合診療部救急診療科)

4) 3 か月男児の窒息事故により明らかとなった母の育児疲労

○鶴田 夏子、篠原 嶺、広村 竣、及川 裕之、伊藤 環、玉井 直敬、佐々木万里恵、
坂口 友理、肥沼 悟郎、高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

窒息、肺水腫をきたした 3 か月男児。横に寝かされていた長男が覆い被さったことが原因であった。母は普段、男児を別のベビーベッドに寝かせていたが、「危険を感じながらも赤ちゃん返りしていた長男の横に寝かせた」「この事故がなければ長男を虐待していたかもしれない」と語った。母を労うことに加え、家族機能の強化、地域支援の導入により育児環境は安定した。

5) 墜落多発外傷の自閉スペクトラム症の男児例

○渡邊真太郎¹⁾、藤澤 惇平¹⁾、武藤 智和²⁾、森岡 一朗¹⁾

(日本大学板橋病院小児科)¹⁾、(日本大学板橋病院)²⁾

小児の自殺企図による墜落外傷は発生数が少ない。始業式当日に自殺企図による墜落多発外傷で搬送された12歳男児例を経験した。集中治療室で外傷初期診療、周術期管理を行い救命した。自閉スペクトラム症と診断し、多職種が介入し環境調整や心理教育を行い希死念慮が消失した。自閉スペクトラム症は自殺の危険因子であり、注意が必要である。

6) 急性発症の歩行障害を呈した1歳8か月の女児例

○大久保結子、宮田 世羽、大城 紗彩、大熊こずえ、瀧浦 俊彦、楊 國昌

(杏林大学小児科)

1歳8か月女児。突然の歩行障害を主訴に他院整形外科・小児科を受診し原因不明であったため、当院へ紹介となった。精査の結果、神経・筋疾患は否定的であり、下肢の単純X線で左脛骨に骨折線を認め、Toddler's fractureの診断に至った。乳幼児の突然の歩行障害では本疾患を鑑別に挙げ、軽微な外傷の有無を含めた詳細な問診を行うことが重要である。

休 憩 15:05—15:15

感染症だより 15:15—15:35 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏 (国立がん研究センター中央病院感染症部)

多屋 馨子 (国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 (iii 小児科領域講習) 15:35—16:35 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 菅谷 明則 (すがやこどもクリニック)

小児炎症性疾患の診かた・考え方～自己炎症性疾患と自己免疫性疾患のクロストーク～

森 雅亮 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科生涯免疫難病学講座)

最近、免疫には、「獲得免疫」と「自然免疫」の2つのシステムが存在することが知られるようになってきた。獲得免疫は病原微生物に特異的に反応するのに対し、自然免疫は非特異的に、もしくは病原微生物の共通部分をパターン認識して応答する。以前より獲得免疫の異常として「自己免疫性疾患」が知られていたが、近年自然免疫の異常によって、炎症反応が自然に起こり臓器障害に至る「自己炎症性疾患」という疾患概念が提唱されてきた。本講演では、小児でもよく見られる自己炎症性疾患と自己免疫疾患の相違点・相関性について概説する。

第3グループ 16:35—17:05

座長 今井 丈英 (山口小児クリニック)

7) 気管憩室と気管狭窄を合併した治療抵抗性喘鳴の1歳女児例

○木村 玲奈、熊澤 健介、平野 大志、和氣 英一、溜 雅人、伊藤 研、関口由利子、

安武 れい、井田 博幸

(東京慈恵会医科大学小児科)

症例は左冠動脈起始異常術後の1歳女児。6か月時より感染時の喘鳴を繰り返し、胃食道逆流症と診断され加療したが症状の改善を認めなかった。気管支鏡検査にて、気管憩室と気管狭窄を合併していることが判明した。気管憩室は感染を惹起し、気管狭窄は喘鳴の原因となる。治療抵抗性の喘鳴の鑑別に重要な疾患と思われるため報告する。

8) 舌根嚢胞の女児例

○岡田 怜奈、影山 智佳、前田 直則、河津 桃子、簗生なおみ、佐藤利永子、香取 奈穂、鈴木 絵理、三春 晶嗣、山澤 一樹、藤田 尚代、込山 修 (東京医療センター小児科)

在胎40週1日、体重3,180gで出生した1か月女児。生後約2週間からの吸気性喘鳴を主訴に生後1か月時来院した。体重増加、酸素化は良好だったが喘鳴に加え無呼吸を伴うため入院した。耳鼻科で喉頭軟化症は否定され、造影CTで舌根嚢胞と診断した。他院耳鼻科に転院し、嚢胞開窓術後に喘鳴は改善した。吸気性喘鳴について報告する。

9) ばね状金属の上部食道異物誤飲を内視鏡にて摘除した乳児例

○村山 綾香、山田 舞、川崎 健太、春日 晃子、高松 朋子、竹下 美佳、石田 悠、西亦 繁雄、山中 岳、柏木 保代、河島 尚志 (東京医科大学小児科)

10か月男児。インフルエンザ罹患中、喘鳴を契機に異物誤飲と診断した。異物はV字状の針金を伴うクリスマスオーナメントの部品であり、先端が食道入口部の粘膜に嵌入していた。周辺臓器への損傷を防ぐため、全身麻酔下にて内視鏡で胃内に移動し、反転させ摘除した。長径(3cm)が大きくても、折れ曲がるものは誤飲の危険性を考慮する必要がある。

第4グループ 17:05—17:35

座長 柿本 優 (東京大学小児科)

10) 錯乱型片頭痛の女児例

○坂口 陽平、杉山恵一郎、八田 京子、中澤 美賀、内山健太郎、入鹿山佳代、高 京愛、醍醐 政樹、小松 充孝 (賛育会病院小児科)

錯乱型片頭痛は、特徴的な意識障害の経過を辿る一次性頭痛である。今まで多数の報告がされており、稀な疾患ではない。しかし、国際頭痛分類に記載はなく、初見の場合は診断が困難なことがある。今回、7歳女児が意識障害で入院となったが、詳細な病歴聴取、その後の経過から錯乱型片頭痛と診断した。文献的考察も含めて報告する。

11) 当科で短期間に経験した錯乱型片頭痛の2例

○森下あおい、桐野 玄、真保 麻実、中谷 久恵、岡田 麻理、恩田 恵子、今井 雅子、鈴木奈都子、長澤 正之、大柴 晃洋 (武蔵野赤十字病院小児科)

錯乱型片頭痛は鎮痛のみで軽快するが、脳症との鑑別が困難で、過剰な検査や治療が行われることが多い。1例は初め脳症を疑い、髄液検査やステロイドパルス療法を行ったが、2例目は既往から本症を疑い、最小限の検査で診断し症状の改善を得た。文献的考察を加え報告する。

12) 小児総合診療科外来における思春期患者の臨床像の検討

○小池研太郎¹⁾、阪下 和美²⁾、永井 章²⁾、中館 尚也²⁾、窪田 満²⁾、石黒 精¹⁾
(国立成育医療研究センター教育研修センター)¹⁾、(同 総合診療科)²⁾

小児科では不定愁訴を持つ思春期患者の診断と対応に苦慮することが少なくない。このような患者の臨床像を明らかにするため、過去30か月間に当科へ紹介された11~18歳で、基礎疾患のない206例の臨床像を後方視的に検討した。診断は起立性調節障害、慢性頭痛が半数、2割が不登校であり、総合的な診療と支援の枠組みが必要と考えられた。

【運営委員会だより】

1. 第 651 回講話会（平成 31 年 1 月）のプログラム編成について報告がありました。プログラム編成の骨子と座長が紹介されました。
2. 第 651～653 回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認されました。
3. 来年度の教育講演について、承認されました。
4. 来年 7 月の東京都地方会から新会場となることが報告されました。
5. 名誉会員推薦に関して、推薦者の確認を行いました。
6. こどもの健康週間に関して、HPに、2016 年・2017 年・2018 年の 3 年分を掲載し、それ以前のパンフレットはタイトル、ご執筆者、ご所属の一覧を掲載することが報告されました。
7. 第 43 回東日本小児科学会は 11 月 23 日に千葉大学の千葉先生が千葉市文化センターで開催し、378 名の参加者でした。第 44 回東日本小児科学会は 2019 年 11 月 23 日東京医科歯科大学森尾先生が都市センターホテルで開催予定。第 46 回（2021 年）東日本小児科学会を東京都地方会として主催することを打診され、受諾することが了承されました。
8. 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまでに 670 名（全会員の約 30%）の登録があったことが報告されました。
9. 第 650 回講話会（12 月）の出席者は 250 名、ベビーシッタールーム利用者は 3 名、前回講話会以降の新入会者 18 名、退会者は 11 名でした。

【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- ・ 演題の締切は次のようになります。
- ・ 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
1 月	前年 11 月 30 日	2 月	前年 12 月 25 日	3 月	1 月 31 日
5 月	2 月 28 日	6 月	4 月 30 日	7 月	5 月 31 日
9 月	6 月 30 日	10 月	8 月 31 日	12 月	9 月 30 日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承下さい。
その場合、事務局よりご連絡します。

【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださるようお願い致します。（原稿はワード入力にて e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。
東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

【事務局よりご連絡】

- ・ 今回の教育講演には日本小児科学会専門医新制度における小児科領域講習の単位が付与されています。13 時から教育講演開始まで引換券を配布しますので、教育講演終了後から講話会終了までの間に引換券と単位認定証とを交換して下さい。
なお、引換券は当日限り有効です。
また教育講演開始後に入場、及び終了前に退出された方には小児科領域講習単位はお渡しできません。
- ・ こどもの健康週間パンフレットは 2016 年版と 2017 年版も在庫がございます。ご希望の先生は事務局までご連絡下さい。なお在庫の関係でご希望部数をお送り出来ない場合がございますことをご了承下さい。

Presentation について

発表は Computer Presentation (Windows のみ可、Mac は不可) のみで受け付けます。Mac の PC 持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000 以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第 1、2 グループ発表者は午後 1 時 30 分までに、第 3 グループ以降の発表者は午後 3 時までにはスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願い致します。

動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の **10 日前**までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へ e-mail または FAX でお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにあります。利用当日、お子様が好きな食べ物・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3 日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

症例・研究を発表してみませんか

—— 小児科専門医を目指す方へ ——

ご投稿をお待ちしております

小児科臨床では、投稿いただきました論文には必ず査読が入ります。投稿規定の詳細は弊社ホームページをご覧ください。

編集委員

今井孝成・浦島崇・小林正久・鈴木光幸・
田中恭子・長谷川大輔・張田豊・堀越裕歩

普通号 (年10回) 2,700 円 + 税

特集号 (年 2 回) 増刊号 (年 1 回)

年間購読料 (前納) 43,000 円 + 税

(第 71 巻)

12号 特集

抗菌薬の適正使用と
院内感染対策について考える

増刊号

よくある疾患の診かた
— 他科からの助言 —

5号 特集

私の処方 2018

(第 70 巻)

6号 特集

ここがポイント
小児診療ガイドラインの使い方



日本小児医事出版社



株式会社 日本小児医事出版社

〒160-8306 東京都新宿区西新宿 5-25-11

TEL 03-5388-5195

FAX 03-5388-5193